



路政春秋

橋上、橋を架する

珍橋奇景

東京府下八王子市の萩原橋は過般の豪雨で脚橋沈下しその後段々沈下して橋の中央が一メートルも凹んで摺鉢形をなした。コンクリート製豪華橋と鼻を高くしてゐただけに當局の苦心も甚しく腦漿を絞つた擧句が橋上橋で長さ約二十メートル、幅五メートル、高さ一メートル位の木橋が凹んだ所へ架けられた、左右の歩道はそのままなので通行人は中央部の橋上橋を走るトラック荷車等を見上げながら往來する奇觀を呈してゐると云ふ。

斷じて眞似てはな

らぬ

戦死の將校の妻が夫に殉死したことは其の想夫愛の純情に對しては同情の涙を禁し得ない、だが他人は斷じて眞似てはならないとの桂某の一文には共鳴する。即ち夫れは、日本の歴史上に現れた勇士、節婦は數ある中に、吾々が學ぶべき人物と眞似てならない人物は、儼然と區別しなければならぬ。例へば四十七士の大石良雄の如き、私には心から敬意を表するものであるが、今の世の人は決して彼を眞似てはならない。

いま日本國內には、殉死した未亡人と同じやうな運命にある婦人が、幾百幾千ある

注 本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に渡らざる限り奇想天外的の奇稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のことは。

かを考へれば、戦慄を禁じ得ない。この世に望みなくば殉死せよと書き残した勇士の詞に、今さら批評を加へようとは思はぬが、夫に先立たれた妻のなすべき仕事は多々あるべき筈である。この世に望みを捨てず、夫の菩提を弔ひ銃後にあつて君國のため盡すのが、軍人の妻としての道ではなからうか。

今回殉死された未亡人は、今次事變の犠牲者として、深く哀悼の意を表すると共に同じ境遇にある未亡人の中から第二、第三の犠牲者を出でざらん事を切に祈る次第である。

老人國と沈み行く地

人口漸減の趨勢は現在英國の當面する最も憂ふべき社會問題の一とされてゐるが先般プライトンで行はれた國民衛生専門家會々議席上議長サー・レオナルド・ヒル博士は「それにも増して關心すべきは百年後に英國は老人ばかりとなることだ」と數字的根據を示して出席者の注意を喚起した。ヒル博士の所論に従へば現在英國では百人中十五歳以下の者は二十三名なのに比して六十歳以上の者は十二名であるがこれが三十年後になると前者は十人に減少するのに反して後者は二十四人に増加する、六十年後には前者僅か四人後者が四十五人になるといふのである、「かゝるが故に百年後の状態は凡そ想像が付かう、少年の遊戯と笑ひ、青年の魅力に代る老衰が充滿した世界はどんなに憂鬱なものか、今にして適當なる手段を講ぜざるべからず」といふのがヒル博士の結論である。

アイダホ州南部地方の豐饒な農耕地に最

近引續いて大規模な土地の沈下現象が起り地質學界のみならず全米の大問題となつてゐる。第一回の陥没では約二週間の間に百七十五呎乃至二百呎の深さに土地が沈下しこの現象は一時中絶するかに見えたが八月十四日に至り第一回の陥没箇所から約二十五呎離れた場所が再び沈没し始め長さ七十五呎、幅二十呎に互る地域が僅か二十四時間間に七十五呎の深さに陥没引續き物凄い音響と土煙とをあげつゝ沈下を續けてゐる。陥沈地域は漸次擴大すると共にその深さも次第に増大、目下のところこの陥没現象は何時停止するか豫測し得ない状態である。附近の農民は逸早く安全地帯に避難したが同方面の人心はこれが爲大動搖を來し就々として仕事も手につかぬ有様である。

涙なくては讀まれ

ぬ烈言熱語

日支戦争は愈々擴大されて山西に北支に

上海に將又南支に戦へば必らず日本の勝利となる、其の報知には吾れ人共に歡喜に堪へない、山岳の頂上に望樓の上に城壁の上にトーチカの頂きに日章旗がへんぼんとひるがへつたと傳へらるゝと吾が働きの如くに小兒兒童までが萬歳と高く叫ぶ、だが其の戦捷の報道の裏には彈丸の數の如くに散つて消え去る人命がある、無名戦死者の靈がある、一臺の飛行機が組立てられるのは汗と疲勞が間斷なく要求される、爆破して飛來した飛行機の手入れ修理には不眠不休の血を吐く思ひの勞役がある、精銳を第一線に送るの背後には身命を碎くの整備の苦勞がある、應召して出征の豫後備兵士の跡には涙と血との悲劇がある、所謂世に知られない縁の下の力持ちが數限りもなく存在する、此等隠れたる犠牲者は天の戸籍帳には鮮かに記されるのであらうが、我等國民としては深甚の感謝を捧げねばならぬ。否自己放棄の精神を以ての同勞者たる覺悟

があるべきである、安價な昂奮から目ざめよ我等大和民族よ。

思へば悲し北支の空

福日の紙上江口隼人の通州哀歌を朗吟せよ、殘虐の極みを盡した通州の恨事、

恨は永き通州の

朝の露と、消えはてし

あゝ父いづこ、母いづこ。

あはれ坊やは、たゞひとり

とりのこされて、とぼとぼと

歸る祖國の、山や河

あゝ父上よ、母上よ

あれが富士ぞと、叫べども

答ふる聲は、今や亡し。

慈愛の眼、描きては

夢に父母、呼びながら

眠る坊やの、頭是なき。

「だけど坊やは、泣かないよ

かなしいけれど、父さんは

み國のために、死んだんだ」

やがて坊やが、仇討と

今年五歳の、孤兒が

涙で仰ぐ、お月様。

ありやなしやの珍

聞奇譚 (8)

△岐阜縣惠那郡付知郡越道峠に自生してゐる「枝垂れ椈」は高さ三十七尺餘で枝といふ枝はいづれも垂れてゐる、文部省囑託三好博士の調査によると樹齡約百年を経てゐるものといはれ、これも天然記念物の惠那郡福岡村下野の「女夫松」とともに全國珍木の雙璧となつたわけである。

△大和義舉天誅組の盟主、中山侍從忠光卿の借用證文の一札が同義舉の史蹟地として知られる吉野郡大塔村大字阪本の區長の秘筐の底から發見された。

右一札は朝議一變、天誅組が幕軍のため追討を受け遂に千津川落ちとなつた文久三

年九月軍費に窮乏したため遂に同村阪本、

籓、小代の三大字から三ヶ年の年貢米前納

名目で百兩を上納せめ後日のため村方役人

に一札を書渡したもので、同年十二月村方

役人から五條陣屋に右證書を楯として年貢

赦免を嘆願した一札も保存されてゐる。

原文左の通り

(證) 一金百兩也

右者今般軍用金に借入候就而は爲返濟方

今亥年より丑年迄三ヶ年之間共三ヶ村稅

銀令用捨者也

文久三年亥九月

忠光、籓村、阪本村、小代村庄屋、年寄

惣百姓共(寫眞はその珍札)

△「生きて居る化石」とも言ふべきクリロフ

ラッタと言ふ昆虫が、カナダのE. M. ウォ

ーカー博士によつて發表された。此の原始

的な動物は、カナダロツキー山脈の高地の

水河に近い苔や、腐つた木や岩の間に棲ん

で居り翼はなく、色は琥珀色、すつから成

長して、四分の三時位の大きくなる虫で
 蟋蟀と油虫の合の子のやうな昆虫である。
 非常に冷たい中で生きて居るので生命の進
 行も頗る緩慢で普通の昆虫が數週間で成育
 し、一年位生きて居るのに較べて、之は卵
 から成虫になるまで約五平かゝり、一代の
 壽命は七年を下らない。人間の掌で掴んで
 も熱過ぎて死んでしまふと。

話せばわかる

日支戦争に關し歐米では其の非恰かも日
 本にあるが如く感じ日本を重壓せんとする
 議も見受けらるゝが話せばわかる問題であ
 る、カゾリツク教のローマ法王は「日本の
 直接の關心は共產黨勢力のアジア浸潤驅逐
 に外ならない當然日本に協力すべきだ」と
 デルベック氏は「英米佛等の諸國はやれ日
 本軍の殘虐だ、空爆だと騒いでおるが自分
 達の過去の歴史はどうだ、そう言へた義理
 ぢやあるまい」とフランクリン氏は四十年

前英國が南阿に於てのボア土民を無慈悲に
 攻略した先例を援用して「日本との友好的
 協力を確保せんとする政策に現状維持を尙

秋漫吟

銀翼を列ねて秋の雲低し

初聲

秋の灯に獨り背きぬ靜座人

秋の灯に黄昏の色移りけり

月未だし霧の底なる籠り堂

眼帯に陽を厭ふ秋の女かな

眼帯に女おもはゆし秋の灯に

秋の空と男心よ聞怨譜

通學子案山子に唱歌投げて行く

學的に主張するよりも結局アジアの平和繁
 榮に貢献するものではなからうか」と話せ
 ばわかる話ぢや。

とり〜に蟲鳴く背戸の塚に月 巴 藤

雁啼くに晴れ行くに鳥黄昏るゝ

向ひ島の月に浮びて海女踊る

稿ならず筆のつかれや柚味噲やく

秋晴れや野菊など賣りに村娘

濱の娘らさんざめく邊さんま舟

ひぐらしや暮れ行く木下夜泣石

朝霧の晴れ行く湖邊知らぬ鳥

星ありと仰げば雁の亂れ飛ぶ

紅葉狩雨ならんとして黄昏るゝ